

【2021年版】 東方書店おすすめ

中国を学ぶための 入門書・ガイドブック

価格は消費税 10%込で表示しています

* 東方書店のウェブマガジン WEB『東方』 https://www.toho-shoten.co.jp/web_toho

中国関連の国内書・輸入書の情報のほか、
中国関係の書評やコラム、連載など読み応えたっぷり！



* メールマガジン『電伝』

中国輸入書籍の近刊・新入荷情報をメールでお届けします！

ご登録はこちら⇒ <https://www.toho-shoten.co.jp/mailmag/index.html>



やさしくくわしい中国語文法の基礎

改訂新版

守屋宏則・李軼倫著／東方書店／2,640円／2019年

初級から中級まで学習者のニーズに応える、参考書の決定版をリニューアル！ 充実した検索機能など、旧版の長所はそのままに、例文を全面的に見直し、解説もアップデート。例文には日本語訳とピンインを付す。



HSK6級 読む聴く覚える 2500

(音声ダウンロード方式、チェックシート付き)

田芳・安明姫著／東方書店／3,300円／2020年

HSK6級要綱の新出語彙 2500語を 72 篇の文章に組み入れているので、単語、センテンス、本文 (700～800字) の 3 ステップからなる文章を繰り返し聴き、繰り返し読めば、語彙が自然に身に付く。



大人なら使いたい中国語表現

メールやビジネスシーンで恥をかかないために

林松濤著／三修社／2,200円／2020年

仕事で中国語を使うなかで、「中国語にも敬語表現はある！」と、うすうす気付いているあなたに。場所、相手、伝達手段にふさわしい表現を身につけて、中国語をグレードアップしよう。



デジタル時代の 中国学リファレンスマニュアル

漢字文献情報処理研究会／好文出版／4,950 円／2021 年

中国関連の資料探索や文献調査を行う際に役立つガイドブック。従来のアナログ的な資料や工具書だけでなく、近年急拡大しているデジタルリソースの利用方法を同列で紹介している点が最大の特長。各項目では「くずし字はどうしたら読めるでしょうか」「唐詩の唐代の発音はどうやってしらべたらいいでしょうか」など、Q&A 形式で具体的に調査手順を解説。用語説明や参考資料も豊富に掲載。中国学を学ぶ学生・大学院生や研究者の他、隣接分野を専攻する方にもお勧めしたい一冊。

目次：1 章 基礎知識／2 章 漢字漢語をしらべる／3 章 文献資料調査の基礎／4 章 清代以前の文献をしらべる／5 章 近代の文献をしらべる／6 章 仏典・道教経典をしらべる／7 章 紙以外の資料をしらべる／8 章 論文をしらべる／9 章 年月日・場所をしらべる／10 章 人をしらべる／11 章 制度をしらべる／12 章 社会をしらべる／13 章 文学をしらべる／14 章 芸術をしらべる／15 章 現代中国語をしらべる／16 章 音韻をしらべる



図書館のための和漢古書目録法入門

伊藤洪二著／樹村房／2,310 円／2019 年

和漢古書は現代の書籍と比較するとそのありようが大きく異なり、取り扱いが難しい。本書は、図書館現場へ向けて NCR での規定に言及しつつ、図書館システム上で和漢古書の目録を作成する際に必要となる諸知識を紹介する。



図書館がつなぐアジアの知 分類法から考える

U-PARL 編／東京大学出版会／2,970 円／2020 年

新しく開設される東京大学アジア研究図書館ではいかなる構想のもと新しい分類が構築されたのか。これまでの体系をふまえ、東京大学が誇るアジア研究図書館のより活用しやすい分類法を模索した成果。デジタル化の動向も視野にこれからの図書館をみすえた新たな可能性を提示する。



東アジア文化講座

前近代の東アジアの交流を学び、今に活かす！
東アジアの文化と文学の交流を学ぶシリーズ



1 はじめに交流ありき

東アジアの文学と異文化交流

染谷智幸編／文学通信／3,080円／2021年

総序 東アジアの文化と文学(小峯和明)／序 はじめに交流ありき—東アジアの文学と異文化交流(染谷智幸)／第1部 東アジアの往還 渡海記と漂流記—十六世紀以前を中心に(鈴木彰)ほか／第2部 海域と伝承 黒潮文化圏と新「海上の道」—柳田国男の想像力(角南聡一郎)ほか／第3部 島嶼の文化 港市と島嶼の文学—北九州海辺の伝承世界から(菊地仁)ほか／第4部 交易と文化 海賊と海商(森田雅也)ほか／第5部 東アジアの聖地 五台山の仏教文化—東アジアが育んだ歴史(小島裕子)ほか

2 漢字を使った文化はどう広がっていたのか

東アジアの漢字漢文文化圏

金文京編／文学通信／3,080円／2021年

序 東アジアの漢字・漢文文化圏(金文京)／第1部 漢字文化圏の文字 漢字の誕生と変遷—甲骨から近年発見の中国先秦・漢代簡牘まで(大西克也)ほか／第2部 漢文の読み方と翻訳 日本の訓読の歴史(宇都宮啓吾)ほか／第3部 漢文を書く 東アジアの漢文(金文京)ほか／第4部 近隣地域における漢文学の諸相 朝鮮の郷歌・郷札(伊藤英人)ほか／第5部 漢字文化圏の交流—通訳・外国語教育・書籍往来 華夷訳語 付『元朝秘史』(栗林均)ほか

3 東アジアに共有される文学世界

東アジアの文学圏

小峯和明編／文学通信／3,080円／2021年

序 東アジアの文学圏(小峯和明)／第1部 東アジアの学芸 儒教の世界—近世日本の場面から(中村春作)ほか／第2部 東アジアの宗教と文学 仏伝の変成—浄飯王の物語(趙恩鶴)ほか／第3部 東アジアの侵略と文学 モンゴルの侵略とその言説—『越旬幽霊集録』を読む(佐野愛子)ほか／第4部 東アジアの歴史と文学 琉球の歴史叙述と説話(木村淳也)／第5部 東アジアの文芸世界 才子佳人の世界(鄭炳説／金英順訳)ほか

4 東アジアの自然観

東アジアの環境と風俗

ハルオ・シラネ編／文学通信／3,080円／2021年

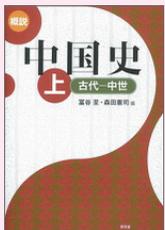
序 環境と二次的自然(ハルオ・シラネ)／第1部 地理、気候、文化 海と島の文学誌(小峯和明)ほか／第2部 四季の文化と詩歌—二次的自然の世界 詩歌と物語の四季—〈冬(夜)〉を中心に(李愛淑)ほか／第3部 風俗と文化 化粧・髪型と文化(平松隆円)ほか／第4部 食文化と文芸 食文化と料理(原田信男)ほか／第5部 年中行事と芸能 東アジアの儺—鬼神往還祭儀(野村伸一)ほか



教養の中国史

津田資久・井ノ口哲也著／ミネルヴァ書房／3,080円／2018年

先秦史(渡邊英幸)／秦代～前漢武帝期(水間大輔)／前漢中期～後漢(井ノ口哲也)／三国・両晋・南朝(津田資久)／匈奴・五胡・北朝(松下憲一)／仏教美術の道のり(森田美樹)／隋・唐(江川武部)／唐後半期・五代・北宋・南宋(宮崎聖明)／契丹(遼)・金・元(渡辺健哉)／明・清(小川快之)／清末・中華民国・中華人民共和国(小野寺史郎)／中国と台湾をめぐる現代文学の歩み(小笠原淳)／現代中国案内(森平崇文)



概説中国史 上 古代—中世

富谷至・森田憲司編／昭和堂／2,530円／2016年

先秦～唐までの歴史を最新の発見・学説・解釈に基づいて記述。総論(富谷至)／先秦(吉本道雅)／秦・漢(鷹取祐司)／後漢・三国鼎立(角谷常子)／魏晋南北朝(藤井律之)／隋・唐(辻正博)



概説中国史 下 近世—近現代

富谷至・森田憲司編／昭和堂／2,530円／2016年

五代～民国・現代までの歴史を最新の発見・学説・解釈に基づいて記述。五代・契丹・宋・金(古松崇志)／元(村岡倫)／明(中島楽章)／清(岡本隆司)／民国・現代(石川禎浩)／中国史研究の手引き(森田憲司)



テーマで読み解く 中国の文化

湯浅邦弘編著／ミネルヴァ書房／3,850円／2016年

中国の文化を14のテーマでくわしくやさしく読み解く。14のテーマ：世界遺産／漢字／書籍／学問／法と政治／文学と絵画／文学と音楽／故事と歴史／科挙／宗教と民間信仰／ト筮／医学／日本漢詩文／東西文化交渉



中国文化55のキーワード

武田雅哉・加部勇一郎・田村容子編著／ミネルヴァ書房／2,750円／2016年

万里の長城、面子と交際、皇帝と奴隷、芝居見物など55のキーワードから中国文化の精髓を解き明かす。写真・図版も豊富でどこから読んでもおもしろい、中国へのさらなる好奇心・探究心に応える入門書。



中国思想基本用語集

湯浅邦弘編著／ミネルヴァ書房／2,750円／2020年

基本的な用語から丁寧に解説するコンパクトな用語集。時代順に編まれ、中国思想史の流れを感じながら個別項目を学べる。中国古典の名言やコラムも含み、楽しく知識を増やせる「読む事典」。また、巻末には役立つ資料も付いた充実の内容。



はじめて学ぶ中国思想 思想家たちとの対話

渡邊義浩・井川義次・和久希編著／ミネルヴァ書房／3,080円／2018年

古代から現代に至る中国の代表的思想家を、その生涯と思想、そして原典（書き下し文）の引用によって読み解く。年表や時代概説も盛り込み、中国思想史の大きな流れを立体的に捉える道案内（ガイド）を提供する。諸子百家から魯迅、毛沢東まで約80人（「コラム」を含む）。



入門 中国思想史

井ノ口哲也著／勁草書房／3,080円／2012年

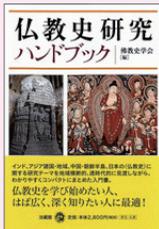
中国思想史を初めて学ぼうとする人を対象とした、時代ごとの断代史という構成による入門書。孔子や老子の登場につながる思想からはじめ、全体を通史としてみることで、現代の中国を理解するために必要な様々なものの考え方が理解できるようになる。



道教思想 10 講

神塚淑子著／岩波書店／946円／2020年

老子の「道」の思想を起点に、古代神仙思想、後漢末の太平道と五斗米道、六朝知識人の修養法など、さまざまな思想・運動をとりこみながら形成された道教。その哲学と教理を、「気」の生命観、宇宙論、救済思想、倫理・社会思想、仏教との関わり、日本への影響などの論点からとらえる。



仏教史研究ハンドブック

佛敎史学会編／法蔵館／3,080円／2017年

インド、アジア諸国・地域、中国、朝鮮半島、日本の仏教の歴史と教義が詰めこまれた便利でコンパクトな一冊。仏教史を学び始めたい人、幅広く知りたい人に最適！



新・図説 中国近現代史 日中新時代の見取図（改訂版）

田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司・梶谷懐著／
法律文化社／3,300 円／2020 年

中国近現代史の始点を清朝の斜陽（1800 年）におき、21 世紀に至る過程を 3 編 15 章 119 項で描写。改訂にあたり 2011 年以降の動向を盛り込み、21 世紀の中国、台湾・香港を充実。



現代中国の歴史 兩岸三地 100 年の歩み（第 2 版）

久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉著／東京大学出版会／
3,080 円／2019 年

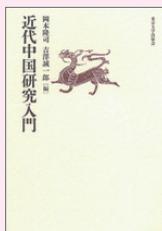
中国近現代史の通史として定評のあるテキストの改訂版。超大国として世界のなかで位置づけも劇的に変化した中国。第 2 版では初版刊行（2008 年）以降の情勢をふまえて増補・改訂し、年表・参考文献も刷新した。



ハンドブック 近代中国外交史 明清交替から満洲事変まで

岡本隆司・箱田恵子編著／ミネルヴァ書房／3,850 円／2019 年

清朝、そして中華民国は、迫り来る西洋や日本の脅威に対していかに立ち向かったのか。いかなる外交を展開したのか。本書では、清朝建国からアヘン戦争、日清・日露戦争などを経て満洲事変勃発に至るまでの約 300 年になされた 65 の事例について、それぞれ背景、展開、意義を詳述する。



近代中国研究入門

岡本隆司・吉澤誠一郎編／東京大学出版会／3,520 円／2012 年

現代中国を深く理解する手掛かりは、近代の中国にある。中国の本質に迫る学習の手引として、備えるべき研究書・工具書・史料を紹介するとともに研究上の留意点について丁寧に解説する。



中国職官辞典 秦から南宋まで

吉田誠夫編／日外アソシエーツ／紀伊國屋書店発売／34,980 円／2020 年

秦から南宋までの中国各王朝における職官・官署を、中央の上級官僚から地方の下級官吏まで 1.2 万件を網羅した専門辞典。設置時代、職掌、定員人数、位階等級などについて、基本的な知識を得ることができる。「逆引き索引」付き。



よくわかる 現代中国政治

川島真・小嶋華津子編著／ミネルヴァ書房／2,860 円／2020 年

見開き 2 ページで一項目を解説するわかりやすい構成で、大きな時代の流れを把握しつつトピックごとに学びを深めることができる。内政・外交・司法・経済・軍・文化的側面にも広く目配りした、現代中国を知るための必読書。影響力を増す中国の実態を捉え、これからの世界の行く末を見通す。



現代中国外交

毛里和子著／岩波書店／3,410 円／2018 年

1949 年の建国から約 70 年。新興国から大国へと変貌した中国外交の軌跡をたどるとともに、中国にとって重要な位置を占める対米関係、対ロシア関係、対日関係を柱に外交の展開を詳細に解説する。巻末に、学習に役立つ文献ガイド、略年表を収録。



現代中国の起源を探る 史料ハンドブック

中村元哉・大澤肇・久保亨編著／東方書店／2,640 円／2016 年

政治・思想史、中国共産党史、軍事史、民族政策史、農村政策・農村社会史研究、ジェンダー史など、12 のジャンルごとに専門家が「研究状況」「史料紹介」を記述、必要に応じて詳しい「史料解題」を付す。巻末の「研究文献・史料一覧」は約 50 頁にわたる。



中国経済学入門

加藤弘之著／名古屋大学出版会／4,950 円／2016 年

「曖昧な制度」はいかに機能しているか。成熟した中国経済研究からエッセンスをつかみ出し、所有・市場からガバナンスやイノベーション、対外援助、さらには腐敗・格差まで、生動する独自の経済システムを、トータルに、かつ長期的なパースペクティブのなかで、明解に説き明かす。



中国経済史入門

久保亨編／東京大学出版会／4,180 円／2012 年

中国経済が成長を遂げた歴史的背景をどのようにとらえればよいのか。中国経済史の最新の研究動向と課題を第一線の研究者が紹介する。第 1 部で 18 の分野ごとにアウトラインと研究案内を整理し、第 2 部は史料の所在・閲覧方法などを紹介する。第 3 部は基本的な統計類を収録。



ほくぎし
北魏史 洛陽遷都の前と後

東方選書 54 窪添慶文著／東方書店／2,420 円／2020 年

秦漢代と隋唐代という統一帝国に挟まれた分裂の時代、魏晋南北朝時代にあって、約 150 年続いた北魏とはどのような国だったのか。北魏が大きく変化する第 7 代孝文帝の改革から説きはじめ、そこに至る道のりと、改革後の北魏の分裂と滅亡までを語り、隋唐時代に与えた影響を考察する。



さんごくし こうこがく
三国志の考古学 出土資料からみた三国志と三国時代

東方選書 52 関尾史郎著／東方書店／2,200 円／2019 年

発掘調査によって出土した資料を駆使しながら三国時代の諸問題について考察する。簡牘、石刻、漆器、画像石、墓葬壁画など、多岐にわたる資料を取り上げ、膨大な研究史を整理した上で、新たな知見を提供し、正史『三国志』の解釈にも見直しを迫る。



ごごじゅうろっこく
五胡十六国 中国史上の民族大移動（新訂版）

東方選書 43 三崎良章著／東方書店／2,200 円／2012 年

3 世紀末から 5 世紀半ばの「五胡十六国時代」に光を当て、中国社会が多民族の融合の上に形成されたことを史料のみならず墓室画像などの出土品も用いて明らかにする。2002 年刊行書籍の新訂版。



きやうど
匈奴 古代遊牧国家の興亡（新訂版）

東方選書 48 沢田勲著／東方書店／2,200 円／2015 年

前 2～後 1 世紀にかけて、北アジア史上最初に登場した騎馬遊牧民の歴史をたどるとともに、考古学的知見をもとに社会・文化を紹介。さらにユーラシア内陸部の遊牧民が東西の歴史に及ぼした影響をも考察する。



きつたんこく
契丹国 遊牧の民キタイの王朝（新装版）

東方選書 47 島田正郎著／東方書店／2,200 円／2014 年

9 世紀半ばの北・中央アジアで勢威をふるったキタイ（契丹＝遼）国について概説。著者が還暦に記した「回想」と、「島田正郎先生の横顔——『契丹国』再刊に寄せて」（岡野誠）を付す。



ちか 地下からの贈り物 おくもの 新出土資料が語るいにしへの中国

東方選書 46 中国出土資料学会編／東方書店／2,200 円／2014 年

近年飛躍的に増加した中国の新出土資料。どこからどのようなものが出てきたのか、それを使って何がわかるのか。歴史・文学・思想・考古・医学など多方面にわたる研究者が最新の成果を紹介する。研究状況の概説および補論を付す。



ちゅうごく 中国の神獣・悪鬼たち しんじゅう あつき 山海経の世界〔増補改訂版〕

東方選書 44 伊藤清司著／慶應義塾大学古代中国研究会編
東方書店／2,200 円／2013 年

『山海経』を手がかりに、古代人が「外なる世界」に住まう超自然的存在をいかに恐れまた活用していたのかを探る。初版 1986 年。現在の研究状況の概説および補論 2 編を付す。



しよ 書と思想 し そう 歴史上の人物から見る日中書法文化

東方選書 51 松宮貴之著／東方書店／2,200 円／2019 年

王羲之、顔真卿、乾隆帝、毛沢東、聖徳太子、空海、最澄、副島種臣など、歴史上の人物の「書」に現れる「思想」を解き明かす。日本と中国の歴代の能書家 37 人に「甲骨・金文」「竹帛書」「法隆寺釈迦三尊像光背銘」を加え時代順に配し、約 170 点の図版とその釈文を収録する。



しよ 書誌学のすすめ し がく 中国の愛書文化に学ぶ

東方選書 40 高橋智著／東方書店／2,200 円／2010 年

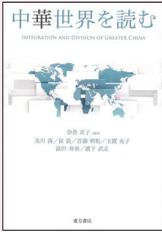
「善本」を懇切に講義。書物の誕生から終焉、再生と流転までの生涯とともに、中国歴代の書物文化史を概観。現代書誌学による調査の実例や、「中華再造善本」「古籍普查」など中国の最新動向も伝える。



さんごくし えんぎ 三国志演義の世界 せ かい 〔増補版〕

東方選書 39 金文京著／東方書店／1,980 円／2010 年

史実と虚構を交えた叙述スタイルから、背後の出版文化や政治思想まで。『三国志演義』を生んだ中国的世界を解明する名著に、近年の研究成果を反映させた増補版。日本と韓国における受容の様相も明らかにする。



中華世界を読む

奈倉京子編著／東方書店／2,640円／2020年

「中華世界」—その輪郭をどう描くか— (奈倉京子)、「一带一路」と中華世界 (崔晨)、台湾と東南アジア (玉置充子)、中華世界と中国ムスリム (首藤明和)、華語語系文学の輪郭と展望 (及川茜)、華僑華人のネットワーク (濱下武志)、中華世界とマレー世界 (富沢寿勇)、中華世界と日本 (濱下武志)



中国のムスリムを知るための60章

エリア・スタディーズ

中国ムスリム研究会編／明石書店／2,200円／2012年

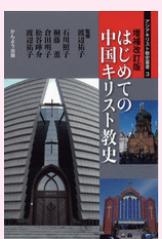
中国には10のイスラームを信仰する少数民族が暮らしている。中華世界とイスラーム世界との接触・共存・融合・対立などのダイナミズムを体現してきた彼らについて知るための入門書。



中央ユーラシア史研究入門

小松久男・荒川正晴・岡洋樹編／山川出版社／3,300円／2018年

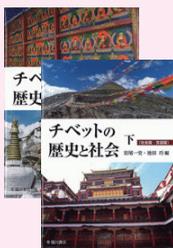
中国からヴォルガ・ウラル・コーカサスまで広汎な中央ユーラシア地域の研究を、時代・地域別に解説。ソ連解体後、自立をはたした国々の最新の研究成果も満載。参考文献やオンライン情報など基本データを網羅した入門書の決定版。



増補改訂版 はじめての中国キリスト教史

渡辺祐子監修／石川照子・桐藤薫・倉田明子・松谷暉介・渡辺祐子著／かんよう出版／2,200円／2021年

7世紀以降の中国におけるキリスト教史を叙述。現代にかんしては、宗教統制下の三自愛国教会や、非公認の家庭教会、中共とパチカンとの関係、香港の逃亡犯条例改正問題、国家安全維持法の問題についても言及。



チベットの歴史と社会

上 歴史篇・宗教篇／下 社会篇・言語篇

岩尾一史・池田巧編／臨川書店／各4,950円／2021年

日本のチベット学の現在を知るための書。既存の解説書とは一線を画し、平易な概説と専門的な論文との間の架け橋となる。下巻に文献案内、参考資料(地図・地名データ、チベット文字のローマ字転写と発音表記)を収録。



中国ジェンダー史研究入門

小浜正子・下倉渉・佐々木愛・高嶋航・江上幸子編
京都大学学術出版会／3,850 円／2018 年

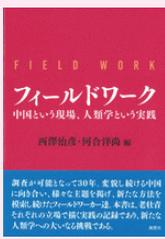
社会の父系化、ジェンダー規範の強化、そして社会主義をへて改革開放の大変動まで。家族、労働、ナショナリズム、身体、LGBT など今日的な研究視点を網羅し、中国ジェンダー史研究の全体像を初めて伝える。



中国女性史入門 女たちの今と昔〔増補改訂版〕

関西中国女性史研究会編／人文書院／2,530 円／2014 年

いまだかつてなかった自由な視点からの新しい研究をふまえ、古代から現代までを見渡した中国女性史の入門書。増補改訂版。



フィールドワーク 中国という現場、人類学という実践

西澤治彦・河合洋尚編／風響社／3,960 円／2017 年

調査が可能となって 30 年。変貌し続ける中国に向き合い、様々な主題を掲げ、新たな方法を模索し続けたフィールドワーカー達。本書は、老壮青それぞれの立場で描く実践の記録であり、新たな人類学への大いなる挑戦である。



歴史学の縁取り方 フレームワークの史学史

恒木健太郎・左近幸村編／東京大学出版会／5,500 円／2020 年

歴史学はいかなる知的枠組み（フレームワーク）のもと形づくられてきたのか。その時代の状況にも対応し、切りひらかれてきた歴史学は、その枠組みがときには批判されつつも、継承されてきたことを史学史的に論じる。これからの歴史学にとって必要な手がかりを示す。



学術書を読む

鈴木哲也著／京都大学学術出版会／1,650 円／2020 年

「専門化の罠」に落ちないために。専門外の学術書の読書の意義と選書の方法を大学出版の編集者が語る。第 I 部 考える——学術書を読む意味／第 II 部 選ぶ——専門外の専門書をどう選ぶか／第 III 部 読む——学術書の読書から現代を考える。



教養としての中国古典

湯浅邦弘編著／ミネルヴァ書房／3,300円／2018年

『論語』『列女伝』『菜根譚』ほか18種の中国古典について、実見の機会が少なくなってきた写本・版本の図版を大きく掲載し、各章に「名文読解」の節を設けるなど、原典にも親しみながら学べるように編まれた入門書。巻末の「中国の古典五〇選」では多種多様な中国古典をコンパクトに紹介。



目録学に親しむ 漢籍を知る手引き

京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究中心編／古勝隆一・宇佐美文理・永田知之著／研文出版／1,650円／2017年

「京大文研漢籍セミナー」の第6冊。目次：目録学——俯瞰の楽しみ（古勝隆一）／子部の分類について（宇佐美文理）／目録学の総決算——『四庫全書』をめぐる（永田知之）／附録 漢籍目録の参考文献（古勝隆一）



李白と杜甫の事典

向嶋成美編著／大修館書店／13,200円／2019年

唐を代表する二大詩人、李白と杜甫の総合事典。250篇を超える詩文の解説を主に、李杜の生涯や旅について紹介する。唐代の歴史や地理、政治や文化についても一章を設け、作品理解のための幅広い情報を提供する。唐詩の形式・助字用例解説・年譜・地図など、資料も充実。



漢文の読み方 原典読解の基礎

宮本徹・松江崇著／NHK出版発売／2,860円／2019年

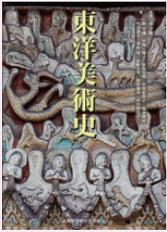
前半（第1～8章）は、漢文（古典中国語）とその主要な文法規則についての概説。後半（第9～14章）は講読で、『墨子』『李賀小伝』『史記』など、思想・文学・歴史の各分野から2編ずつ取り上げる。最終章では日本漢文にも目を配る。



漢文で知る中国 名言が教える人生の知恵

加藤徹著／NHK出版／1,870円／2021年

『三国演義』『紅樓夢』『西遊記』や「中国の昔話」などの古典小説、禅語や漢詩、京劇のセリフ、魯迅の小説、毛沢東の演説などからとっておきの名言を紹介、古来から続く中国の叢知を語り尽くす。さらに中国特有の文化や風習など、知っておきたい中国人の生活についても詳細に解説。



東洋美術史

朴亨國監修／武蔵野美術大学出版局／2,640 円／2016 年

東洋における代表的な美術作品をたどり、その歴史的展開と造形的特質を解説するテキスト。日本文化形成の源流である東アジア（中国・韓国）に多くのページを割き、初学者に学びやすい構成をとっている。インド、スリランカ、チベット、東南アジア、中央アジア、中国、韓国の 7 章。



中国京劇小辞典

魯大鳴著／駿河台出版社／1,980 円／2019 年

京劇を観る前に、京劇を観た後に、京劇の手引書として京劇鑑賞に必携の一冊。京劇の各分野の単語を 8 つのパート（役者篇、音楽篇、化粧篇、服装篇、道具篇、京劇用語日常生活篇、京劇慣用語及び諺篇、演目篇）に分けて説明。見出し語には中国語の発音のカタカナルビ付き。



中国服飾史図鑑 第四卷

黄能馥・陳娟娟・黄鋼編著／古田真一監訳／

科学出版社東京／国書刊行会発売／30,800 円／2021 年

衣服、冠帽、履物、装身具、髪型や化粧まで、写真や図解を駆使して網羅的に解説。第一巻 服飾の誕生～魏晉南北朝、第二巻 隋～元、第三巻 明～清(上)、第四巻 清(下)～近代（各巻税込 30,800 円）。



中国くいしんぼう辞典

崔岱遠著／李楊樺画／川浩二訳／みずす書房／3,300 円／2019 年

中国各地の人びとの肺腑に沁みつけた味の数々を、「家で落ちついて食べる料理」「街角で気ままに楽しむ料理」「レストランで味わう精緻な料理」に分け、味わい深い文章と香ばしいイラストで情感ゆたかに描き出す。“吃货”(くいしんぼう)たちの胃袋をとらえた、垂涎必至のエッセイ。



漢字字形史小字典

落合淳思著／東方書店／6,600 円／2019 年

基本字が多く含まれる小学一～三年生で習う漢字を中心に、574 字について甲骨文字からの字形の変遷をたどる。字形の継承関係や継承されずに消滅した字形などを含めた丁寧な流れ図で解説している。



香港の歴史 東洋と西洋の間に立つ人々

ジョン・M・キャロル著／倉田明子・倉田徹訳／明石書店／4,730 円／2020 年
香港史の3つの視角—イギリス植民地史の一部として叙述、中国史の一部として叙述、香港の独自性を主張する「香港史」として叙述—に配慮し、多角的な視点から、1840年代～2006年までの香港の歴史を語る。巻末に歴代香港総督・行政長官一覧、年表などを附す。



香港 国家安全維持法のインパクト

一国二制度における自由・民主主義・経済活動はどう変わるか
廣江倫子・阿古智子編／日本評論社／2,200 円／2021 年
逃亡犯条例改正案から国家安全維持法の制定へ、大きな岐路に立たされている香港。一国二制度の今後と、法制度と社会への影響を読み解く。



香港とは何か

野嶋剛著／筑摩書房／924 円／2020 年
香港が歴史的転換点を迎えている。中国は、一国二制度を形骸化させる国家安全法を香港の頭越しに決めた。世界を驚かせた2019年の大規模抗議デモに続き、香港問題はいま米中新冷戦の最前線に浮上している。国際金融都市・香港を知りたいすべての人に届ける一冊。



香港映画 100の情景 輝く世界と自由な記憶

林加奈子・美山恵子著／言視舎／1,980 円／2021 年
香港はどこに行くのか？ こんなときだからこそ、香港の映画人脈に通じた二人の映画人が、街の魅力と密接にむすびついた映画たちを紹介。初めて香港映画を観る人におススメ作品から、マニアックなファンの期待にも応えられる映画の舞台裏まで、とっておきの話題を満載。



香港を知るための60章 エリア・スタディーズ

吉川雅之・倉田徹編著／明石書店／2,200 円／2016 年
「歴史・地理・人口」「政治と法」「経済と社会」「多様性とネットワーク」「メディア・教育・言語」「文化」に分け、香港の魅力を紹介。参考文献、年表、固有名詞対照表（繁体中文・英文・日本語）も付し便利。



日台関係史 1945-2020 増補版

川島真・清水麗・松田康博・楊永明著／東京大学出版会／3,080 円／2020 年

日本と台湾の戦後から現在までの歴史をグローバルな視点から描き出す通史。東アジアを的確に理解するために必要な戦後の日台関係の歴史について、連続と非連続を総合的に叙述した初版から約 12 年、その後の東アジア、そして世界のなかでの変容を増補する。



台湾研究入門

若林正文・家永真幸編／東京大学出版会／4,290 円／2020 年

東アジアの地政学上、いまや重要な島となってきた台湾。台湾研究の第一線の研究者たちが、台湾の歴史・政治・社会・文化を理解する上で重要なキーワードによってわかりやすく、簡潔に解説する。「台湾とは何か」という問いに多角的な視点から迫る新しい入門書。



台湾の歴史と文化 六つの時代が織りなす「美麗島」

大東和重著／中央公論新社／990 円／2020 年

「美麗島」とも称される台湾に、今も息づく独自の文化。その伝統は 1624 年のオランダ統治以来、鄭氏、清朝、日本、国民党に至るまで、各時代の外来政権との関係によって形作られてきた。本書では、激動の台湾を生きた人びとの視点から、四百年におよぶ歴史をたどる。



侯孝賢と私の台湾ニューシネマ

朱天文著／樋口裕子・小坂史子訳／竹書房／2,750 円／2021 年

「1982 年。台北のカフェ、明星珈琲館で私はこの人と出会った――。」『恋恋風塵』『悲情城市』など、不朽の名作の数々を侯孝賢とともに創り上げてきた女流作家、朱天文が描く「台湾映画がもっとも輝いていた、あの日々」。台湾ニューシネマのミュージズによる、珠玉のエッセイ集。



台湾を知るための 60 章 エリア・スタディーズ

赤松美和子・若松大祐編著／明石書店／2,200 円／2016 年

戦後長らく「謎の島」と言われてきた台湾は、21 世紀にはグルメツアーや買い物に気軽に行ける海外旅行先にすっかり様変わりしたが、台湾に対する理解はどれだけ進んだだろうか。歴史、政治からポップカルチャーに至るまで様々な面から紹介する概説書の決定版。

中国の歴史

講談社学術文庫 全12巻

1 神話から歴史へ

神話時代 夏王朝
宮本一夫著／1,485円／2020年

2 都市国家から中華へ

殷周 春秋戦国
平勢隆郎著／1,705円／2020年

3 ファーストエンペラーの遺産

秦漢帝国
鶴間和幸著／1,760円／2020年

4 三国志の世界

後漢 三国時代
金文京著／1,430円／2020年

5 中華の崩壊と拡大

魏晉南北朝
川本芳昭著／1,430円／2020年

6 絢爛たる世界帝国

隋唐時代
氣賀澤保規著／1,485円／2020年

7 中国思想と宗教の奔流

宋朝
小島毅著／1,430円／2021年

8 疾駆する草原の征服者

遼 西夏 金 元
杉山正明著／1,430円／2021年

9 海と帝国

明清時代
上田信著／1,815円／2021年

10 ラストエンペラーと近代中国

清末 中華民国
菊池秀明著／1,485円／2021年

11 巨龍の胎動

毛沢東 VS. 鄧小平
天児慧著／1,650円／2021年

12 日本にとって中国とは何か

礪波護ほか著／1,485円／2021年



本目録に掲載の書籍は、東方書店ホームページ・東京店舗・関西店舗でお買い求めいただけます

◆ 東方書店東京店舗アクセス図



東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線
神保町駅 A7 出口徒歩 1分
営業時間：(月～土) 10:00-19:00 (日) 休業
【祝】12:00-18:00
☎ 03-3294-1001 / shop@toho-shoten.co.jp

※営業時間は変更になる場合がございます
弊社 WEB サイトをご確認ください

◆ 東方書店関西店舗アクセス図



地下鉄御堂筋線江坂駅 5号出口徒歩 5分(駐車場あり)
営業時間：(月～金) 10:00-17:30 (土日祝) 休業
☎ 06-6337-4760 / kansai@toho-shoten.co.jp

◆ 東方書店ホームページ
<https://www.toho-shoten.co.jp>

東方書店 🔍 で検索

